

科目名	嚥下障害 I						授業の種類	演習	必修・選択		必須
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期	
【授業の目的・ねらい】 多様な原因で発症する摂食嚥下障害の診断、評価、訓練法を習得する											
【実務者経験】 言語聴覚士として蘇生会総合病院、川南病院にて、嚥下障害分野でのリハビリに從事経験。											
【授業全体の内容の概要】 嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズム、及び嚥下障害の原因となる疾病と外傷、嚥下障害の病態について理解する											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 対象者の病態・様態に関わらず摂食嚥下障害を評価するための知識を身につける 2. 摂食嚥下障害に対する治療法・リハビリテーションを理解する 3. 関連する他職種との連携について理解する											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	総論：リハビリテーションと口腔機能										
2	総論：摂食嚥下機能障害に言語聴覚士は何をするのか										
3	基礎（1）小児の摂食嚥下機能と障害										
4	基礎（2）成人の摂食嚥下機能と障害										
5	基礎（3）事例を通じて考える摂食嚥下障害への取り組み										
6	摂食嚥下に関する解剖										
7	摂食嚥下に関する検査										
8	摂食嚥下障害に対する間接訓練										
9	摂食嚥下障害に対する直接訓練										
10	摂食嚥下障害に対する食事介助										
11	摂食嚥下障害に対する外科的アプローチ										
12	摂食嚥下障害の原因疾患										
13	摂食嚥下障害に対する歯科補綴的アプローチ										
14	危険な摂食嚥下障害（窒息、誤嚥、胃食道逆流）										
15	摂食嚥下障害と栄養										
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学											
【準備学習・時間外学習】 授業の予習、復習を行うこと。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											